

三浦市、横須賀両市と連携・協力に関する協定を結びました。

平成 28 年 10 月 20 日付で、神奈川県立海洋科学高等学校と三浦市、横須賀市が、それぞれ協定を締結いたしました。

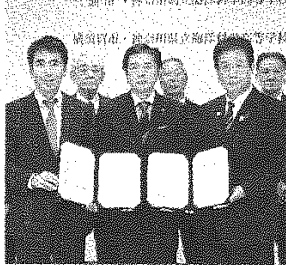
本協定は、神奈川県立海洋科学高等学校と三浦市、横須賀市が、それぞれ地域活性化や教育・人材育成などの施策に係る相互の連携、協力を円滑に行うことを目的としています。

県立海洋科学高校では、生徒の主体的な学びにつながる様々な学習機会の提供と充実を図るため、地方公共団体、大学等教育機関、関連研究機関等と連携する県立高校学習活動コンソーシアムの形成に努めるとともに、地域との連携・協働による学校づくりを一層推進し、学校が地域のコミュニティの核となることや、神奈川県らしいコミュニティ・スクールの導入に取り組んでおり、今回もこの一環として行うものです。

神 奈

第3種郵便物認可

協定書を手にする（前列右から）吉田三浦市長、榊校長、吉田横須賀市長
〓 県立海洋科学高校



県立海洋科学高校（横須賀市長坂）は20日、横須賀、三浦両市と連携を強化する協定を結んだ。海洋教育など両市との協力関係をさらに進め、地産地消などにも取り組み、同校の持つマンパワーや施設を活用して地域の核となる学校づくりを目指す。（瀧谷 創）

三浦市内の子どもたちが同校の実習船に体験乗船するイベントで生徒が案内役を務めたり、横須賀市内に民泊する修学旅行生向けのパンフレットを生徒が制作したりと、同校はこれまでも両市と連携してきた。協定締結を受け、今後は海洋の専門知識を持つ同校教員による出前授業や、マグロやキャベツなど三浦半島特産の素材を使った同校生徒による商品開発、民泊する

地産地消などで海洋科学高

「地域の核」目指して

横須賀、三浦両市と連携強化



開発した缶詰をPRする県立海洋科学高校の生徒

修学旅行生の同校施設の見学などを企画している。同日行われた締結式には、吉田雄人横須賀市長や吉田英男三浦市長らが出席。榊校長は「今後は地域の中で生きていく生徒を育てるため、シチズンシツプの醸成に力を入れていきたい」とあいさつした。また、生徒が地元の特産品を使って開発した「マグロ大根」と「サバのロール」の小川愛夏さん(18)は「生徒手作りの味を知ってほしい。地産地消にもなり、土産などで買ってもらえるとうれしい」と話していた。

開発に携わった同校3年生の小川愛夏さん(18)は「生徒手作りの味を知ってほしい。地産地消にもなり、土産などで買ってもらえるとうれしい」と話していた。

三浦市・神奈川県立海洋科学高等学校

協定書締結式

横須賀市・神奈川県立海洋科学高等学校

